

豊かな心の育成と健やかな身体の育成をめざして — 平成27年度指定

心身ともに健康で たくましい
実践力のある 児童の育成をめざした P T A 活動

岩国市立藤河小学校 P T A



藤河小学校春の情景

P T A 会長 松 重 光 信
学 校 長 片 山 伸 二
児 童 数 1 0 8 名
家 庭 数 8 8 名
所 在 地
〒 7 4 1 - 0 0 9 2
岩国市多田 1 3 6 5 - 2
T E L : 0 8 2 7 - 4 1 - 0 7 7 4
F A X : 0 8 2 7 - 4 1 - 0 9 1 1
E-mail fuzikawa_s@city.iwakuni.lg.jp

1 学校地域の概要

「周防にある 岩国山を越えるひは たむけよくせよ あらきこの道」

この句は、万葉の頃（奈良時代）防人が、広島から小瀬川（山口県と広島県との県境を流れ川の名称）沿いの中津原（今の太田市）を通り、県境にある和木町をぬけ、岩国山を越え、関戸、多田、御庄、柱野、欽明路へと至る途中で詠んだものといわれている。和木町から、藤河地区を抜ける道は、今はすっかり整備された道路が通り、国道2号線の交通渋滞の緩和に大きく役立っている。この道は、江戸時代の終わり、囚われの身となった吉田松陰が江戸に送られる際にも通った道でもある。さて、この歌が詠まれた頃から、藤河地区はすでに開けており、駅馬（官吏などの公用の旅行のために、諸道の各駅に備えた馬）や伝馬（中央・地方間の情報伝達システムとして整備されたものであるが、中世になると廃止）などが整備され、九州と中国地域を結ぶ交通の要路として、藤河地区の歴史は始まったといわれている。今では、新幹線の駅や高速道路のインターチェンジもあり、現在の交通の要所として発展している。しかし、残念なことに藤河地区は、錦川沿いにあるが地勢が低く、ちょうどこの地区が川のわん曲地点にあたり、川の増水氾濫に度々見舞われることが多く、残念ながら万葉の頃を忍ばず歴史や資料はほとんど残っていない。

現在藤河小学校のある藤河地区は、観光地で有名な名橋「錦帯橋」より約6キロメートル上流の錦川沿いの集落からなっている。南は錦川沿い、北は200～300m前後の山地があり、その間に耕地と宅地が開かれている。本校区は、4地区（多田・阿品・関戸・田原）に分けられ、近年校区内の宅地化の進行により世帯数が増え、それに伴い児童も増加しており、従来からこの地区に住んでおられる方と、新しくこの地区に来られた方が混在する地区である。河岸が整備されたとはいえ、近年の台風



平成26年度豪雨災害の様子
左上：平成17年 台風14号最高水位

(平成17年台風14号による錦川の氾濫)や局地的暴雨(平成26年8月)による多大な被害を受けたことから、連合自治会を中核に学校を含めた公共機関を巻き込んだ災害対策自主防衛組織を結成するなど、各自治会だけの活動に終わることなく学校とも密接な連携を図っている。

○ 藤河小学校がめざすもの

(1) めざす児童像：「好奇心をもってチャレンジする子」

- ◇ 進んで学び、よく考える子—自らの課題を解決しようとする子
- ◇ 明るく素直で思いやりのある子—自分や友だちを大切にすること
- ◇ 元気でがんばりぬく子—心身ともに健康で、最後まで粘り強くやり抜く子

(2) めざす学校像：「活力に満ちた楽しい学校」

- ◇ 信頼される学校—子ども・教師・保護者・地域が互いに信頼し合い協力する学校
- ◇ 一人一人を大切にすること学校—人間尊重を基盤とし、自他の思いを大切にすること学校
- ◇ 地域に開かれた学校—地域と共に積極的に躍進する安心安全な学校

(3) めざす教師像：「夢を語り、確かな力量のある教師」

- ◇ 温かい教師・・・子どもを愛し共に学び共に遊び、子ども理解に努める教師
- ◇ 情熱のある教師・・・夢を語り、教職に対する強い情熱のある教師
- ◇ 使命感のある教師・・・豊かな人間性と高い指導力をもち

常に研修と修養に努める教師

【藤河小の児童像】	【児童を育む教師像】
○ふ → ふるさとを愛する子ども	ファイトあふれる教師
○じ → 時間を守る子ども	自由な発想のできる教師
○か → 考える子ども	改善・工夫に努める教師
○わ → わかり合う子ども	わらいのあふれる学級経営

○ 学校・家庭・地域とが連携して育みたい努力点

① (知) 生きる力をはぐくむ確かな学力の定着

考える子ども・わかり合える子ども・時間を守る子ども

- ・ 一人ひとりの学びを大切にすること授業改善と工夫 — わかる授業の推進
- ・ 個の能力に応じた学習方法や形態の工夫 — 基礎的学力の定着と活用力の育成
- ・ 自ら学び、考える児童の育成 — 自己表現力の育成

② (徳) 豊かな心の育成

考える子ども・わかり合える子ども・時間を守る子ども

- ・ 一人一人が大切にされる学習環境づくりの工夫 — 居心地のよい学級づくり
- ・ 自分で考え判断し行動できる力の育成 — 規範意識の高揚
- ・ 誰とでも仲よく助け合い思いやりのある集団づくり

③ (体) 健やかな身体の育成

考える子ども・わかり合える子ども

- ・ 体力づくりを意識した教育活動の推進
- ・ 命を大切に、よりよい人間関係づくりを意識した教育活動の推進

- ・ 食に関する指導の推進

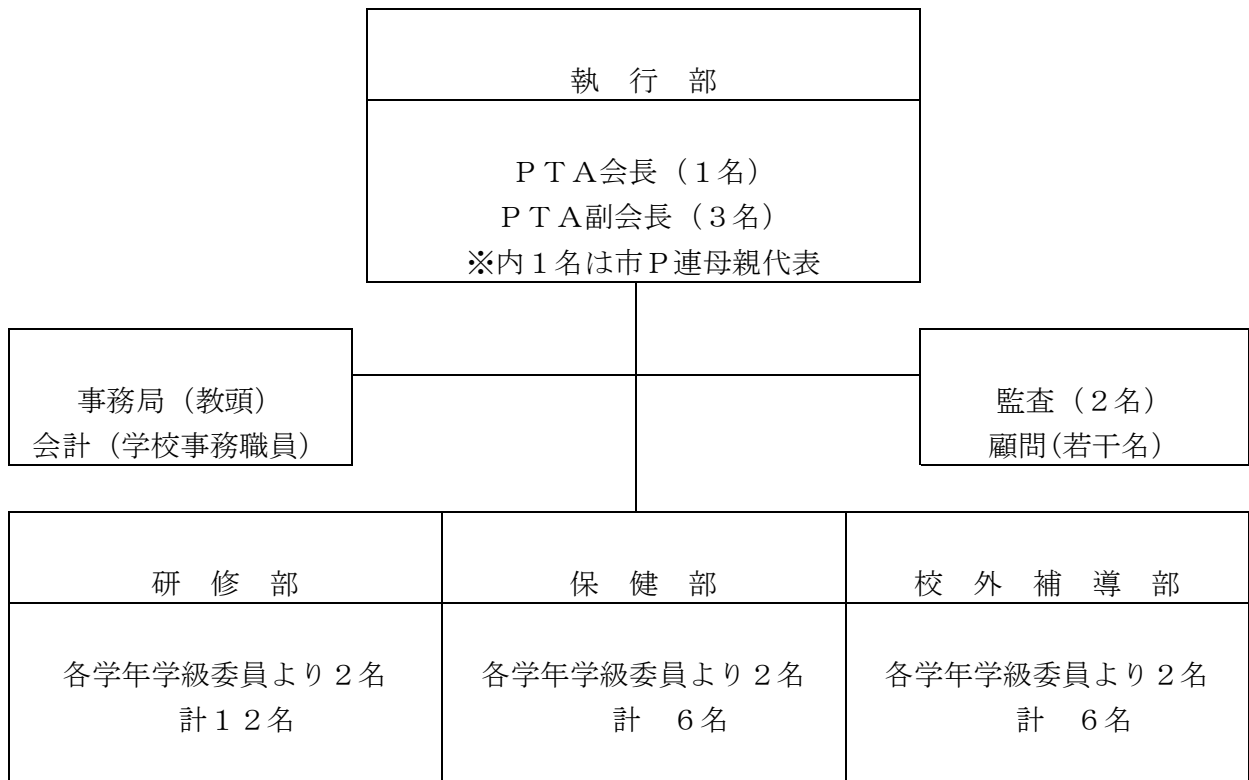
④ (連) 開かれた学校づくり

ふるさとを愛する子ども・時間を守る子ども

- ・ 地域での「ひと・もの・こと」の出会いやふれあいによる、コミュニケーション能力の育成
- ・ 家庭や地域との連携により生活習慣・学習習慣の定着 — **学習の手引きの活用
読書活動の推進**
- ・ 学校運営協議会設置に向けた地域との連携強化

2 藤河小PTA組織と専門部の活動

○ 藤河小PTA組織図



- 役員
- | | |
|------|------------------------|
| 会 長 | 1名 |
| 副会長 | 3名（1名は女性 市P連へ 藤河小母親代表） |
| 学級委員 | 24名（各学年4名選出） |
| 監 査 | 2名（PTA会長の互選により選出） |
| 事務局 | 1名（教頭） |
| 会 計 | 1名（事務職員） |
| 顧 問 | 若干名（前年度の会長または副会長） |

○ P T A 専門部の活動

	研 修 部	保 健 部	校 外 補 導 部
目的 目的	P T A 会員の資質向上を図るために各種研修会に参加するとともに、学級 P T A などの充実深化を推進する。	児童及び P T A 会員の健康安全推進のため、学校保健委員会の企画運営に参加したり、学校の環境整備を企画運営をしたりして、保健活動を推進する。	児童の望ましい成長と安全確保のための活動を企画推進する。
部員 構成	○部 長 1 名 (女性) ※ P T A 副会長 ・市 P 連女性代表兼任 ○副部長 2 名 ○部 員 9 名 ○教職員 4 名	○部 長 1 名 ※ P T A 副会長兼任 ○副部長 2 名 ○部 員 3 名 ○教職員 5 名	○部 長 1 名 ※ P T A 副会長兼任 ○副部長 2 名 ○部 員 3 名 ○教職員 4 名
活 動 内 容	学校・家庭・地域の教育力を高めるために研修活動を推進する。 ・家庭教育学級の推進 ・ P T A 連合会関係研修会への参加 ・運動会の P T A 種目や係の企画運営 ・地区社会福祉協議会行事への参加 ・学級 P T A 活動の充実 ・学級会計の監査	学校保健委員会や学校の環境整備のための活動を企画運営する。 ・夏休み親子奉仕作業の企画運営 ・プール監視当番表の立案 ・学校保健委員会への協力 ・市の学校保健会への参加 ・地区社会福祉協議会行事への参加	児童の安全確保のための対策や活動を企画運営する。 ・交通指導の計画運営 ・学校安全ボランティア (保護者パトロールの奨励) ・学校行事 (参観日・学校公開・運動会等) での巡視 ・地区生徒指導推進協議会への参加 ・地区社会福祉協議会行事への参加

3 研究テーマについて

心身ともに健康で たくましい実践力のある児童の育成をめざした P T A 活動

- 豊かな心の育成と未来を生き抜く力の育成
- 意欲的に取り組むたくましい実践力の育成

本校は、昨年度に引き続き山口県 P T A 連合会の P T A 活動支援助成事業指定校として、上記のテーマを掲げ活動に取り組むことになった。昨年度は、学校と家庭との関わりに視点を置き研究に取り組んだ。本年度は昨年度からの課題であった、「学校・家庭・地域とがより連携を深めていく中で、自己の夢の実現に向けた藤河の子どもたちの健全育成」のために、地域の



方々の力を活かし、これまで以上の学校との信頼関係を醸成しながらPTAとして主体的に活動を進めていくことで、本校PTA活動の活性化を促し、子どもたちの社会性を高め、主体的に物事に取り組んでいこうとする児童の育成をめざして、このテーマを掲げ研究に取り組んだ。

4 活動内容

(1) パンジーが繋ぐもの

毎年、PTAでは藤河地区の大きな行事である、夏の「納涼盆踊り大会」と、「藤河地区文化祭」に、PTA活動の一環として参加している。地域との連携を図るために大変有益な行事である。毎年恒例の行事であるが、この催し物に、子どもたちがただ参加するのではなく、「日頃地域でお世話になっている方々へ間接的にでもどう関わらせればよいのだろうか？」という視点から、「藤河地区文化祭」に間接的に関わることを計画してみた。PTA役員は、文化祭当日うどんとおにぎりの販売のお手伝いを行っている。そこで、藤河地区にある公園の花壇や、地域の方々の庭先に咲く花を育ててみようということになり、パンジーを種から育てることになった。

まだ蝉の音が聞こえる夏の暑い時期に、種をまき、葉が3～4枚になったらポットに植え替え、水をかけ肥料をやり、そして花が咲いたら藤河地区文化祭で地域の方々に配布しようという形で、パンジーの育成が始まった。

ゴマよりも小さな種から、本当に芽が出、きれいな花を咲かせてくれるのか不安もあったが、文化祭当日、あいにくの雨模様の中たくさんの方々に来られた会場で、準備した300の苗があつという間になくなってしまった。

小さな芽が出てきたのは、種を植えて約1週間後。大きくなあれっ！



運動会が済んだ頃には、3～4枚の葉っぱが！こんなに、たくさん！



水やりは、僕たちが！

きれいに咲いたでしょう！



藤河小の子どもたちが心を込めて
水やりをして大きくなったパンジーを！



初めての試みであったが、地域の方々は、きれいに咲いたパンジーのポットを持つ子どもたちの笑顔を見て、「庭に咲かそう！」「種から育てたのはすごいねえ！」「まあ、よう育ちよるねえ！」と言われながら、雨の中パンジーの苗を持って帰られていました。

ある地区の方は、「子どもたちが育てたパンジーだから、わたしらあの地区の公園の花壇に植えるよ。」と言われて、パンジーの苗が入っているケースごと持って帰られました。

パンジーの花が地域と保護者、そして学校とをしっかりと繋いでくれた感じでした。

(2) サツマイモの植え付け

藤河小学校の周りは、自然がいっぱいです。春には桜、夏には眩しい緑の木々、秋には山々の紅葉と校庭の銀杏、そして冬には綿帽子をかぶったような雪景色。藤河地区では四季の情景をじっくりと味わうことができます。そこで、学校の中には大きな畑がないことから、近くのお家の方をお願いして、サツマイモを植える畑を借りることにしました。

畑を耕すのは大人の役目ですが、生活科の学習の一環として1・2年生の子どもたちが植えるサツマイモ畑を作りました。しかし、6月にサツマイモの苗を植え、秋にはたくさんのサツマイモを収穫しようと子どもたちは本当に楽しみにして、暑い中水やりをしたり草を引いたりしていました。暑い中ペットボトルに水を入れての水やりでは大きくなるかな？ということで、100m近いホースを購入しいつでも水やりができるように準備をしました。自然がいっぱいということは、山にすむ生き物たち(イノシシ・タヌキなど)も当然たくさん住んでいます。そこで、イノシシ対策として猛獣よけの柵を用意し、畑の周りをがっちりと囲いました。そして、夏休み。夏の日射しを浴びてサツマイモの茎はどんどん大きくなっていきます。サツマイモの葉も、ホースから撒かれる水を浴びて日に日に大きくなっていきます。畑の近くにある、旧藤河中学校のグラウンドでグラウンドゴルフをしておられる地域の方々も「今年から、サツマイモを植えたようじゃのう。大きゅうなりやあええのう！」と、声をかけていただきました。



お盆も近づいた夏の暑い日の朝、サツマイモ畑を覗いてみると、なんと柵は倒され、せっかく大きくなりかけていたサツマイモは根こそぎ食べられ、サツマイモのうねはぐちゃぐちゃにされていました。



畑を貸していただいた方に話を聞くと、「うちもサツマイモを植えたんじゃけど、つい最近イノシシにみんなやられてしまうたいね！学校の方もやられたかね。いけんじゃったねえ。」と話をしてくれました。

自然に囲まれているとはいえ、山の栄養が乏しくなっているのを感じた、暑い夏の朝のことでした。

ここまで大きくなったのに……

イモ畑 強者どもが

瓜のあと！

(3) 錦川流域河川一斉清掃



錦川流域一斉清掃は、「みんなで守ろうふるさとの清流」と題して毎年7月のはじめに行われている。藤河小学校においても、校区内に流れる清流を守り育てる目的で参加している。この何年かは、降雨のため川の水が増水し、一斉清掃が中止されることが多かった。今年は、曇り空ではあったが、川が増水や雨の心配もなく、早朝より清掃作業が行われた。当日は、保護者、児童、地域の方々、そして教職員あわせて、約50数名の参加があった。台風や豪雨による災害に見舞われることの多い藤河地区であるが

「川はその流域の文化や風土を育んできた暮らしの源であること」

ということを心にとめ、錦川がいつまでも美しくあるために、藤河地区だけでなく流域の住民が手を取り合って、自然豊かな清流を守り育てていくことは子どもたちの豊かな心の醸成につながると考え、PTAの活動の一つとして参加している。



どこからこんなにゴミが流れてきたの？



(4) その他の活動

○ 藤河地区納涼盆踊り大会

昨年度は、豪雨による被害のため中止となった盆踊り大会が、今年はお盆の8月14日(土)無事に、旧藤河中学校グラウンドで行われた。藤河小PTAはこの盆踊り大会で「受付」「飲み物」「景品」「夜店」の係を毎回引き受けている。盆踊り大会の実行委員会には、PTA会長と4地区の子ども会の役員さん、そして社会福祉協議会の一員として学校長が入り、地区の納涼盆踊り大会にPTA活動の一つとして参加している。前



日の準備はもちろんのことだが、7月のおわりに実行委員会のメンバー約50名が参加し、グラウンド整備を行った。PTA役員も、朝早くからこれに参加している。

当日は藤河地区だけでなく、お盆を利用して帰省してきた方や、藤河小学校の子どもたちも参加して、盆踊り大会が盛大に催された。地域の方々が、「だんだんと希薄になる人間関係の繋がりを、少しでも深めるために来年も頑張りましょう。」と言われていたが、保護者と地域、そして学校とがより連携を深めるためにもこの活動を継続していきたいと考えている。

景品係は大忙し！今年は何が1等賞かな？

5 成果と課題



地域の方々と一緒にむかしの遊び
お手玉ってこんなのなんだあ

○ 研究の成果

昨年度の成果を踏まえ、本年度も山口県PTA連合会のPTA活動支援助成事業指定校としてこの1年間活動に取り組んできた。学校と家庭とのより密接な連携づくりから、本年度は学校と家庭という枠に、地域とのより密接な連携づくりを組み入れた視点に立ち、活動に取り組んだ。山口県では、コミュニティースクールを基盤にした、社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組を推し進めている。藤河小学校は、本年度末にはコミュニティースクール(学校運営協議会)を立ち上げる予定である。そのためにも、本年度、地域とのより密接な連携を深め、地域で子どもたちの成長を促し、そして、支援していくことをテーマにした取組は、大変有効であったと感じている。取り組んだ内容はこれまで継続しているものが多いが、取組の内容を見直しながらより密接な連携づくりのために、どのような方策を立てて実践すればよいのかを洗い直すことができたことは、これからの活動に大いに役立つのではないかと感じている。

○ 課題と今後の方向性

P T A活動の中に新たな活動を取り入れることは、難しいと感じることが多いが、本年度のように、これまで取り組んできたことをベースに、より密接な連携を図る方策はどうしたらよいかという視点でP T A活動を見直していくことで、学校と保護者だけでなく、地域も巻き込んだ連携のあり方が、より活性化されたP T A活動につながっていくのではないかと思えた。



今回、収穫できなかったサツマイモについては、次年度もチャレンジしていきたい

と考えている。また、地区の文化祭で好評だったパンジーの育成は、次年度も継続していきたい。小さな種から赤や黄色、紫などの色とりどりの花を咲かせることは、子どもたちの心を耕し、豊かな心の育成に繋がっていくと考えている。計画的に取り組む方策をこれから検討していきたいと思う。

次年度も、「がんばろう！藤河の子どもたち！」「育てよう！藤河の子どもたち！」を合い言葉に、学校・家庭・地域の3者がより密接な連携を構築し、本校の子どもたちそれぞれの夢の実現に向けた実りのあるP T A活動に取り組んでいきたいと考えている。